

ILSI Japan 活動報告<2019>

食品安全研究会

【食品リスク研究部会】

1, 2 月	<p>1. 部会活動：次期役員交代の準備作業を行った。</p> <p>2. ILSI Japan 動物実験代替法プロジェクト (AAT-Prj) ☆参加企業は 2 社増えて 16 社。</p> <p>1) 第 1 回定期会議開催 (3/4)。進捗を確認、議論した (21 名参加)。第 2、3、4 回をそれぞれ本年 6/7、9/4、12/6 に予定。</p> <p>2) 2020 年国際ワークショップ (ILSI Europe コラボ) ・プログラム委員：ILSI Europe (アカデミア 1 名/インダストリー 2 名) 及び ILSI Japan (アカデミア 2 名/インダストリー 2 名) の合計 7 名就任。 ・日程/地域：2020 年 10 月 22 日 (木) - 23 日 (金) に京浜地区開催。 ・内容：動物実験が求められる世界の動向。動物実験代替法活用の現状と必要な研究の示唆。動物を用いない研究の必要性へのアピール。 ・プログラム概要が決まった段階で、アジア各支部 (特にインド、中国)、その後他支部へ紹介、参加募集予定。 ☆上記内容にて ILSI Europe と合意。</p> <p>3) ワーキンググループ (WG) 活動 ・腸管吸収 WG：ヒトの腸管吸収性の予測技術の確立を目指す。取り組みについて専門家 (昭和薬科大 山崎教授、東農大 清水教授) と議論。 ・データベース WG：反復投与毒性試験及び生殖発生毒性試験の代替法として活用可能なデータベースの構築を目指すことで合意。取り組み方法について専門家ヒヤリング予定 (東大 庄野先生)。</p>
3, 4 月	新旧役員で引き継ぎを行うとともに、今後の活動の進め方について協議した (4/12)。
5, 6 月	<p>1. 2019 年度第 2 回目の部会を開催 (2019 年 6 月 7 日)。 2019 年活動計画として、①食品リスク評価上の課題解決・高齢者が摂取する食品の安全性評価の考え方、方法論の整備、発信、②参加企業の食品リスク評価のレベルアップのための勉強会を行うこととした。</p> <p>2. 第 46 回日本毒性学会学術年会 (2019 年 6 月 26~28 日、徳島) において、シンポジウム「日本における食品のリスク評価は進化したか?」(座長：吉田緑先生 (食品安全委員会)、福井英夫 (Axcelead Drug Discovery Partners 株式会社)) で「食品領域の安全性評価の課題と ILSI Japan の新たな取り組み」を発表した。発表では、これまでの食品リスク研究部会の取り組みに加え、現在行っている高齢者を対象としたリスク評価の考え方の整理や代替法推進の取り組みを紹介した。</p>
7, 8 月	2019 年活動計画「食品リスク評価上の課題解決・高齢者が摂取する食品の安全性評価の考え方、方法論の整備、発信」として高齢者における食品-医薬品相互作用に関する文献を精読、情報を抽出した。9 月 4 日開催の部会 (2019 年度第 3 回目) にて、今後の進め方について協議する。
9, 10 月	2019 年度第 3 回目の部会を開催 (2019 年 9 月 4 日)。 ・「食品リスク評価上の課題解決・高齢者が摂取する食品の安全性評価の考え方、方法論の整備、発信」として高齢者における食品-医薬品相互作用に関する文献を精

	<p>読、情報を整理した。その結果、高齢者特有の相互作用は見出せなかったため、本調査は終了とし、これまでの検討結果を報告書としてまとめることとした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一方、参加企業の食品リスク評価のレベルアップのための勉強会は、山添先生（食品安全委員シニアフェロー）をお招きして11/25（月）実施予定。
11, 12 月	<p>2019 年度第 4 回目の部会を開催（2019 年 11 月 25 日）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「食品リスク評価上の課題解決・高齢者が摂取する食品の安全性評価の考え方、方法論の整備、発信」の報告書作成に向け、構成、骨子、担当者、スケジュールについて審議。2020 年内の完成を目指して、着手することとした。 ・また、参加企業の食品リスク評価のレベルアップのための勉強会として、山添康先生（食品安全委員シニアフェロー）をお招きし、「加齢と薬物代謝」について講演、22 名参加。 ・次回、食品リスク評価のレベルアップのための勉強会として、国衛試安全情報部長・畝山智香子氏に講演を依頼、3 月実施予定。